

平成22年度全国学力・学習状況調査の結果と考察

大阪狭山市立南中学校

	学力実態や調査の分析（領域・観点・出題形式等）	指導の工夫・改善
国語A	「読む力」「書く力」など基礎的な国語力は育っている。他方、話したり聞いたりする力に課題が残る。	「漢字」「語句の意味」など、国語の基礎事項については、授業の中で反復学習を行ったり家庭学習の課題として取り上げるなどの方法で、より徹底した習得を図る。
国語B	「読む力」についてはある程度ついている。しかし、「長文等の資料を読み、内容を理解し、説明する」論理的思考力には、課題がある。とりわけ、自分の考えを整理し、文章で表現する問題については無回答率も高い。	自分の考えをまとめ、言葉で表現したり、文章で簡潔にまとめるなどの能動的な活動を、国語科を中心に各教科および学校活動全体の中で増やしていく。また、長文を読み要旨をまとめ簡潔な文章で表す等の活動を増やす。
数学A	毎時間の計算練習を実施することにより、計算問題は正答率が高く、また図形問題でも小集団での話し合い活動により、多様な考えを出し合いながら授業を進めた成果が表れている。一方、例題を参考にして答えを導いたり、数学的用語の理解を求める問題については、正答率が低く課題となっている。	計算問題等の基本問題の反復練習は、今後も授業の最初に継続的に行う。また、数学的用語等の確認を、授業の中で意識的に繰り返すことで定着を図るとともに、用語を使って生徒自らが説明したり、話し合ったりする場面をできる限り取り入れる。

<p>数学B</p>	<p>図形分野では、小集団で生徒自らが説明をしあう学習形態の成果がみられた。しかし、記述問題や短答式問題においては無回答が多く、数学的処理や表現の力の面では課題が残る。</p>	<p>日常生活における様々な事象の本質を数学的にとらえ、「ことば」や「式」で表現できることを目指す。そのため、さらに話し合い活動を取り入れた授業を展開していく。</p>
<p>質問紙調査</p>	<p>「朝食を食べる。」「学校の宿題をする。」「将来の夢や目標を持っている。」「家の手伝いをしている。」「友達との約束を守っている。」という項目では好ましい傾向がみられる。しかし、「予習や復習の時間数。」「好きな授業がある。」「地域の行事に参加している。」などの問いには肯定的な回答が少なかった。また、インターネットや携帯電話での通話やメールの使用率が高く、家庭学習等に悪影響が出ないように注意が必要である。</p>	<p>生活面での部分については、生徒指導部でさらに分析とその対策について検討を行い、種々の通信や懇談会、集会などを通して、注意喚起や啓発を行っていきたい。この点については、保護者の理解と協力が不可欠であると考えている。</p> <p>また学習面での課題は、国語・数学科だけではなく、全教科の授業改善・活動内容や支援方法の工夫へつなげていきたい。</p>
<p>学校としての成果と課題</p>	<p>これまでの問題の分析結果をふまえ、教科では授業の最初に短時間のテストを行うなど、基礎的な力をつける工夫により一定の成果が上がっている。また、グループで話し合い、その結果を発表・交流する活動を取り入れた学習など、応用的（総合的）な力をつける授業や活動の工夫をより一層充実させ、学力向上への取り組みを図っていききたい。</p>	
<p>今後の具体的な取組について</p>	<p>教科の分析は国語・数学科から学習指導部会で、質問紙調査は生徒指導部で話し合っ結果分析を全職員で共有する形式を昨年度から実施している。この形を持続しつつ、教員は授業形態や学習活動のさらなる工夫を行っていく。また生活面での課題などは、学校・学年通信やPTAの集会などで保護者に理解・協力をよびかけ、改善を図っていききたい。</p>	